

政務活動費活動報告（視察）

- (1) 出席者
夏川 嘉一郎（会派・夢みらい）
- (2) 実施日
平成30年2月9日（金）

【1. 調査目的】

- (1) 「地域と大学の連携」の形

【2. 調査地選定理由】

- (1) 調査項目：「地域と大学の連携」推進による地域活性化政策
- (2) 選定地：岐阜県中津川市（庁舎）[人口：79,775人 面積：676.45km²]

【3. 調査結果】

- (1) 内容

①研修テーマ

地域と大学の連携を進める中で地域づくりへの取組み。

〔※彼市は少子高齢化・地域活性化対策として「地域と大学との連携」を主軸に据えての地域再生化事業に取組み中である。（10年後に期待とか）〕

②実施政策（地域特性を踏まえた自主・自立化の重視）

■自治体・まちづくり組織の支援

- 〔・各地域活動団体等の取組み情報共有（地域毎に異なる活動の紹介）
・先進地視察・まちづくり講演会や学習会の開催（講師の依頼）〕

■地域活動団体支援

- ・がんばる地域サポート事業 — 地域課題に取り組む団体を資金面で支援（¥5～30M）

- ・主な活動分類

（文化・生涯学習）（環境・防災）（教育・子育て）（観光・地域活性化）

これまでの団体数 H28年度末迄：143団体、H29年度申請25団体。

■地域づくり型、生涯学習型モデル事業（地区別、公民館事業—講座）

<講座の特性>地域住民と教授の座談会を開催。

その後は相互連絡の中、地域に根差した活動を展開。

- ・参加依頼教授—龍谷大学（社会学部・脇田健一氏）

■域学連携事業

- ・大学生と教授が地域の現場に入り、住民と共に地域の課題解決（意見交換会等）や地域づくりに継続的に取り組む事業（滞在期間：一週間～一か月）
- ・学生の持つ感性や行動力、教授の知識や経験を生かし、地域の活性化や人材育成、更には、地域愛着心の醸成へと繋げる事業。（H26～28年の3年間で大学生約4,800人参加）

<連携事例>

木造建築・農作業・新商品開発販売・特産品を生かしたメニュー開発等、それぞれのテーマ実習に全国各地から多くの大学生が参加、地域住民との交流を通じて地域活性化に取り組んでいる。最近は大学との「連携経験」を市内高校との連携にも生かしている。
～地域愛の涵養を目指して～

■今後の課題（目指したい方向）

- ・長期的視点に立っての取組みの推進。
- ・地域づくりへの担い手の育成・若者等の活動参加意欲の涵養。
- ・多くの学生に中津川について知ってもらい、語ってもらいたい。（中津川PR）
- ・学生や若者のUターン化、当地域移住促進化に繋げたい。

【4. 考察】

現在、ほぼ押しなべて全国の地方自治体を席卷しつつある「人口減少・少子高齢化」対策として、何れの地方自治体も、それぞれの体質に合った施策を模索、推進しつつあるが、中津川市の「域学連携」を地域活性化のメインポイントに据えた所は、若干異質である。しかし、近年若者の自然回帰志向や、中津川市の風光明媚な自然環境を考える時、彼市の施策は時代の潮流を意識した戦略ではと推察する。何時の日か、大きな成果を上げて欲しいものである。

さて、土地柄の異なる本市彦根にこの事業が適合するとは思えないが、「大学生の不振産業への実習参加」や「地域民&学生の意見交換」等の制度化思考は大いに参考にすべき点ではないかと考える。

以上

報告者：夏川嘉一郎